

令和 2 年度 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会馬術競技場における
衛生管理委託事業に係わる「マダニ駆除計画」に関する第 5 回有識者会議議事録

日時：令和 3 年 3 月 12 日（金） 11：00～11：55

場所：WEB 会議

参加者：農林水産省	坂本課長補佐
	川崎係長
	寺田獣医学博士
(株)アグリマート	白井技術グループリーダー
日本防疫殺虫剤協会	千保専務理事
国際衛生㈱	犬塚、鈴庄（記）

令和 2 年度の馬事公苑および海の森公園における第 4 回マダニ現地調査報告及び今年度の本事業の総括に関して、有識者を交え、会議を実施した。以下、概要を示す。

【会議概要】

第 4 回現地調査報告について

- ・ 2 月 16 日（馬事公苑）、17 日（海の森公園）に実施した第 4 回現地調査及び 3 月 4 日に実施したマダニ駆除、9 日に実施した効果確認調査（海の森公園）に関して、資料を基に報告（鈴庄）。
- ・ 馬事公苑ではフランネル法、リター層ともにマダニは捕獲されなかったが、海の森公園にて、フランネル法による調査でマダニが 1 頭捕獲された。
- ・ 海の森公園で捕獲されたマダニは DNA 鑑定及び生殖門が確認されなかったことから、アカコッコマダニの若虫と同定された。
- ・ 馬事公苑では、第 3 回調査時の赤外線カメラ設置時にネコ、タヌキと推定される動物が撮影されたクロスカントリーコース周辺のフェンス周辺を確認した結果、食害を受けたと推定されるドングリが確認された。また、フェンスの隙間に対してネットなどを用いた補修が確認された。ただし、補修箇所下部などには、小動物が侵入可能な隙間が確認された。
- ・ 海の森公園では、現在、南側ゲートからのみ、人、物の出入りが行われおり、北側ゲートは閉鎖されていた。また、公園全域で植木の剪定が行われており、剪定済みの枝が集積されている箇所が散見された。
- ・ 海の森公園でのアカコッコマダニの捕獲を受け、マダニが捕獲されたエリアと宿主と推定される鳥類の巣が確認されたエリアに対して、レナトップ水性乳剤 2（有効成分：エトフェンプロックス 7%）を 50 倍希釈で、2,400ℓを噴霧した。噴霧約 1 週間後に実施したフランネル法ではマダニは確認されなかった。

- ・ 今回の調査で今年度の実務は終了。今年度の結果を受けて、オリンピック・パラリンピック本大会開催までにとれる対策、今年度の総括、今後のアドバイスについて有識者の皆様のご意見をお伺いしたい。

質疑・確認事項

- ・ 馬事公苑内へ動物が侵入していることの対策として、JRA で対応可能なフェンスの隙間の補修を実施したとのこと。（坂本様）。
- ・ 海の森公園では、剪定後の枝が集積されている箇所が散見されたとのことですが、剪定した枝を留めておくことのリスクをご教授ください（坂本様）。
→剪定した枝を留めておくと、その部分では湿度が保たれマダニにとって好適な環境になってしまうリスクがあります。例えば、牛の放牧場では、伐採した木の幹や根を集積した排根線と呼ばれるところでマダニが確認された事例があります。馬が通るコースや厩舎近くには剪定後の枝を留めない方が良いでしょう（寺田様）。
- ・ 馬事公苑の厩舎は密閉性があり、また、馬が滞在する際な冷房を稼働すると聞いています。冷房をかけることでマダニに影響はありますか？（犬塚）
→冷房により厩舎内の温度が 10℃などかなり低温になれば、マダニの活動が制限される可能性がありますが、一般的な冷房の 25℃位の温度では、マダニは吸血を行います。ただ、冷房を稼働することで湿度は下がると思うので、マダニの吸血に影響を及ぼすことが出来るかもしれません（寺田様）。
- ・ 海の森公園でのマダニ駆除方法を選定する際、サフロチン MC がマダニに対して残効性を有するとの日本環境衛生センターなどが発表した論文を紹介しましたが、海の森公園の環境を考慮した上で安全性の高いレナトップ水性乳剤 2 を選定したことは良いと思います（千保様）。
→現時点では試験方法などの関係上、他に使用出来る薬剤はないと思われます。また、マダニ対策として、剪定した枝が集積されている箇所にサフロチン MC を局所的に施工しても良いかもしれません（白井様）。
- ・ 本大会前のコース消毒について、使用する薬剤、時期など具体的な情報が分かりません。農林水産省でコース消毒について具体的な情報をお持ちですか？（犬塚）
→農林水産省でも具体的な情報は入手していません。組織委員会に確認致します。（坂本様）。
→コース上の芝に施工可能なマダニを対象とした動物用医薬品があるのか？医薬品品の乳剤は農薬より高濃度なので、芝に影響を与える可能性があります（白井様）。
→検討会としては、馬ピロプラズマ症の侵入防止を目的とするので、芝への影響に配慮するより、マダニの駆除という目的を優先し、剤を選定すべきと思いますが、そこにはいろいろな観点からの各種関係者のご意見があると思います（寺田様）。
- ・ 馬事公苑では、小動物の痕跡が引き続き確認されているが、小動物が苑内に定住して

いる可能性はないでしょうか？（寺田様）

→馬事公苑の職員からは定住はしていないと聞いています（坂本様）。

→もし、馬事公苑内に小動物が定住しているのならば、現在実施しているフェンスの隙間の補修はかえって、小動物を苑内に留めてしまうことになります。その場合は、苑内に定住している小動物を捕獲した方がよいと思います（寺田様）。

→以前の馬事公苑は草本や樹木などが多く、潜伏場所となる箇所がありましたが、工事により様相が変わり、潜伏場所となる箇所は減少しました。また、調査で小動物の痕跡は確認されましたが、馬事公苑内に定着している様子は見られませんでした。ただ、馬事公苑周辺には小動物は定着ではなく、食べ物や水を求めて通いという形で生息していると思われます（犬塚）。

- ・ 今回、海の森公園で捕獲されたマダニは主に鳥類を宿主とするアカコッコマダニでしたが、2018 年の調査では主として哺乳類に寄生するヤマトチマダニが捕獲されることが気になります。大会中、競技馬が滞在する厩舎やウォーミングアップエリアの周りに薬剤を施工すること、また、野鳥の対策は困難ですが厩舎に網をかける等により侵入を防ぐことが必要と思います（寺田様）。

- ・ 今回の海の森公園にて実施した駆除方法、駆除計画に対する有識者の皆様のコメントはサマライズして年間報告書に記載してください（坂本様）。

→承知致しました（鈴庄）。

- ・ マダニが捕獲された植林地に薬剤を施工したとのことですが、資料 8 ページの写真にある周辺の芝生は馬の通り道となるのでしょうか？（寺田様）

→出発ゲート等の詳細は分かりかねますが、馬が通る可能性があると思います（犬塚）。

→今回、芝生上に薬剤は施工しましたか？（寺田様）

→芝生への影響を考慮して、今回、芝生上に薬剤は施工しませんでした（犬塚）。

→芝生上に薬剤を施工しなかった経緯を年間報告書には記載し、記録として残してください（寺田様・坂本様）。

今年度の総括

- ・ 仕様書通りにマダニの調査、駆除が実施出来たこと、また、マダニ媒介者確認のため海の森公園においてネズミ調査を実施したことや、馬事公苑において赤外線カメラにより小動物の侵入が記録出来たことは、本事業にとって非常に良かったと思います。今回捕獲されたマダニは鳥類に寄生することが多いアカコッコマダニでしたが、幼・若虫期は哺乳類や人にも寄生することが知られています。これより、海の森公園では鳥類の生息数は多いとはいえ、宿主の可能性を鳥類と決めつけず、以前確認されたネコのように他の媒介者の存在も広く視野に入れて対策を考えることが重要です。また、マダニが最も活動する時期は 3 月から 5 月なので、農林水産省に対しては、今まで積み上げてきた成果も踏まえ、本大会までは対策を継続していくことが重要であること

をお伝えします（寺田様）。

- ・ 剪定した枝にマダニ潜伏のリスクがあることから、残効性のある薬剤の施工を検討しても良いかもしれません。事業の開始時期の関係上、マダニが活発な3月から4月の春先に調査が実施出来ないことを懸念しています（白井様）。
- ・ これまで、最も警戒すべきマダニであるクリイロコイタマダニは捕獲されていません。クリイロコイタマダニは日本では生息場所が限定されており、どの薬剤が効果を示すかなどの知見が少ないが現状です。一方、欧米で登録されているマダニ防除剤の多くはクリイロコイタマダニに対する効果を確認された物が多いので、海外の文献情報も参考にされた上で、捕獲された際の対応マニュアルを作成しては如何でしょうか（千保様）。

以上